

第 32 軍司令部壕保存・公開検討委員会
技術検討グループ
令和 4 年度 第 1 回会合 議事概要

日 時：令和 4 年 9 月 20 日（火）
午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分
会 場：沖縄県庁 6 階第 1 特別会議室

— 【技術検討グループ委員】 —

応用地質学	佐々木 靖人	国立研究開発法人土木研究所	理事
地盤工学	伊東 孝	国立大学法人琉球大学工学部	教授
トンネル工学	小泉 淳	早稲田大学	名誉教授

— 【事務局】 —

沖縄県子ども生活福祉部／女性力・平和推進課
沖縄県知事公室／特命推進課
沖縄県土木建築部／都市公園課
沖縄県教育庁／文化財課

— 【次第】 —

- 1 開会
- 2 出席者紹介
- 3 報告事項
(1) 令和 4 年度の取組等について
意見交換・質疑応答
- 4 議事事項
(1) 保存・公開に向けた提言の策定について
(2) 保存・公開に向けた調査実施の優先度について
意見交換・質疑応答

— 【主な意見】 —

1 報告事項

- (1) 令和 4 年度の取組等について
事務局から資料 1 「令和 4 年度の取組等について」を説明し、委員からの意見はなかった。

2 議事事項

(1) 保存・公開に向けた提言の策定について

事務局から資料2「保存・公開に向けた提言（たたき台）」を説明し、委員から主に以下のような意見があった。

○応用地質学／佐々木委員

- ・ 第3章2 平和教育・学習への利活用については、平和教育だけでなく、自然環境、例えば地形、地質、地下水、石灰岩等に関する総合学習として活用できるのではないか。例えば、ボーリング調査などの実録を展示することも可能性である。そうすることにより、学ぶ場として広がりが出てくる。
- ・ 第4章については、「継続的」という文言を記載した方がよいのではないか。当面の実施すべき目標を達成した後も時間をかけて継続的に取り組んでいくことが重要。

○地盤工学／伊東委員

- ・ 第4章については、段階的整備・公開方針に異論はないが、その先の最終的な目標を、例えば、第32軍壕の全体像をどうやって把握するのかなどについても提言に明確にしておいた方がよいのではないか。

○トンネル工学／小泉委員

- ・ 第3章2 平和教育・学習への利活用については、平和教育学習のための記念資料館について検討する必要がある。整備する場合の場所や規模、平和学習セミナーの開催等を踏まえて考えなければならない。また、展示室、講義室、映像室などの具体的な機能、どの程度予算が確保できるか、それらを踏まえた構想なども検討しておく必要がある。
- ・ 第4章2 戦争遺跡としての保存については、文化財指定を優先するのか、安全対策を行い一般の方々に公開することを優先するかによって整備の考え方が異なってくる。例えば、岩盤がしっかりしていても水が浸入してくると困るため、水の浸入を防ぐ対策が必要となる。そのため、調査の進捗状況を踏まえながら整備の方向性を多少、明確に示した方がよいのではないか。

(2) 保存・公開に向けた調査実施の優先度について

事務局から資料3「保存公開に向けた調査実施の優先度について」を説明し、委員から主に以下のような意見があった。

なお、調査実施の優先度にかかる3つの区分と10の箇所区間の設定につ

いては、委員から異論はなかった。

○応用地質学／佐々木委員

- ・ 地質観察、地下水調査など基本的な調査は継続して行い、しっかりデータをとっておく必要がある。そのうえで調査の優先順位を議論していく必要がある。

○トンネル工学／小泉委員

- ・ 優先度を設定するにあたっては、いつ時点の優先度なのか日付を明記した方がよい。調査結果の結果次第では優先度が変わる可能性がある。